

たわわ

SUMMER
No.83

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」
という期待が込められています。

本って楽しい! 本がつなぐ人と人



▲平塚市子ども読書活動推進協議会のメンバーが
中心になり、七夕まつりの竹飾りを作成。
市民飾りの部で3位に入賞しました！



▲小学生が図書館職員を体験するイベント、「1日図書館員」
ではかわいい子ども達が大活躍！
「この本はどこへ戻そうかな・・・？」



▼赤ちゃんと絵本を楽しもう！
ブックスタート事業には1歳未満の子ども達が
参加しています。

子どもたちに 背中を押されて11年

図書ボランティア
諸山朝子さん

私を後押ししてくれている言葉がある。

「本が増えてる」

夏休み気温36度のある学校図書館で、3日間汗とホコリにまみれて蔵書3000冊を廃棄し改修した。そこに6年生図書委員長が入って来て、ぐるり見渡し「本が増えてる」と言った。

本の数は激減して本棚は実質スカスカだが、彼の目に飛び込んでくる読みたい本が増えたのだろう。

その夏から11年この一言が、子どもの居場所であり、情報を得られる場所としての学校図書館づくりに私を動かし続けてくれている。



学校図書館の本の修繕

「もうやまさんの声はしあわせのシャワーみたいだ」

読み聞かせは「子どもに幸福な時間を届ける」ことを目的にしている。対象年齢0~98歳「自分が読んであげたい本」というよりは聞き手に「読んでもらいたい本」を選んで読むようにしている。

また、聞き取りやすい声で読めるようにボイストレーニングも欠かさない。

そんなことを感じてくれた5年生男子からのこの言葉が私への合格通知となった。そして今日も本を抱えて自転車で電車でいそいそ出かける。



保育園で読み聞かせ講座

「伝説の凄い人」

世代を越えて、思いを一つに活動している仲間たちも私に力をくれる。

10年前図書整備ボランティアを始めた小学校では、すっかり代替わりして若いお母さんお父さんおばあちゃんが楽しく活動してくれている。中学校でも同じく。



花水福祉村ミニディサロン

読み聞かせもくらし安全課と協働でますます視点、活動場所を広げ、子どもたちの心に届く活動が出来ている。

さらに、当初は想像すらできなかつた学校司書が市内小中全43校に配置され、公共図書館もともに子どもの読書環境づくりに努めってくれている。

こうして成功体験を共有する時、失敗して凹んだ時、どんな時も共にある仲間は財産だ。

このもったいない言葉はそんなメンバーの息子さん四年生の言葉だ。

「読書ネットで連携・共有、支えあい」

市内15中学校区でそれぞれの地域の特性を活かして活動している仲間たちも手をつないでいる。

湘南ひらつか七夕まつり市民飾りの部で今年は3位入賞を果たした。読書ネットのよびかけで、8中学校区のボランティアと中央図書館長はじめ他3名の職員の皆さんと飾りを掲揚した。まつりに参加し始めて12年にして最も関わった人数の多い市民飾りとなった。

本が好きな子どもにとって、本は心の居場所になる。洋服でもデザートでも居場所でも、いろいろある中から選べるのが楽しい。いろいろある中から、私は得意分野の図書を担当しているつもりだ。

うちの子よその子と隔てず、平塚市中「私たちの子どもたち」の思いで見守り育てて行きたいと思っている。



七夕飾りの絵

子どもから「伝説の凄い人」と評してもらったからには、怠け心に負けてはいられない。



PROFILE

図書ボランティア
諸山朝子(もうやまあさこ)さん

高知市生まれ。魚の美味しい街を探し平塚市に移住して16年。2000年子ども読書年からボランティアを始め、保育園、小、中、高校、図書館、福祉村などで活動している。

能の魅力・楽しみ 1

第4回『湘南ひらつか能狂言』が12月16日(日)に平塚市中央公民館の大ホールで3年振りに開催されます。演目は、能『七騎落』、狂言『文藏』ほかです。これを機によりたくさん的人に興味を持っていただきたいと願い、能の魅力・楽しみについて2回に渡って話をしたいと思います。

湘南ひらつか能狂言実行委員長
平塚謡曲連合会長

石川 幹夫さん



— 詞章の美しさ・広がり —

能の台本である詞章（文章）は平家物語、源氏物語、古今和歌集や説話・漢詩等をもとに、世阿弥をはじめとする能作者が作ったものです。豊かで巧みな想像力を巡らし、掛詞や枕詞を多用し、日本語の心地よいリズムを生む七五調で構成され、詩的に優雅な表現で作られています。

能の楽しみ方は読むこと、聞くことはもちろん、一番は謡（うた）うことです。心地よい響きをふくよかで朗々と謡うことができたら気持ち良いことこの上ないです。また囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）との協奏は迫力があり、情感は更に高まります。

— 舞に見る優雅さと面の精神性 —

主人公は地位・年令・境遇によって、時には豪華な衣装に身にまとい、顔にはその人の内面を象徴的に表現している面をつけます（面をつけない場合は直（ヒタ）面といいます）。能を演ずることを『舞う』とも言います。無駄のない、気持ちが隅々まで行き渡る動きは美しく、その舞いを通じて演者と観客の想いや心情が交流し合う濃密な時を過ごすことができます。

— 能からの学び —

能に興味を持っている人はもちろん、そうでない人にとっても、能の大成者である世阿弥の言葉には精神論とか道徳論を離れ、

物事を実践する上の知恵が見て取れます。それは芸事をする上だけでなく教育論としても登場します。「初心忘れるべからず」、「秘すれば花」等、將軍から庶民までの間に能の隆盛を築くうえで、普遍性をもった作品を生み出し、上演しながら、身体を通じて演技法を確立する上で生み出された言葉です。意外と日常の中に溶け込んでいるものです。

視点を変えると様々な捉え方楽しみ方があるのが能です。自分流を探してみるのも楽しいものです。

能は650年もの間伝統芸能として生き続け、その洗練性において類をみない芸術です。洗練を重ねていくうちに、削ぎ落としを促し、多くの約束事が生まれました。知っていないと分かりづらいことがあります。事前に少しだけ勉強しておけば良いのです。能はちょっとしたきっかけで興味が湧き、楽しみが増えるものです。ぜひ多くの方に作品を御覧いただきたいと思います。

次回は、12月に上演される能の演目から『七騎落』について御説明します。



大山能舞台にて素謡『小袖曾我』

第60回平塚市文化祭を開催します

開催日、内容等は下記のとおりです。
文化と芸術の秋を楽しんではいかがですか!

第60回平塚市文化祭実施期間

平成24年10月10日(水)～12月 2日(日)

◆展示発表

開催日	内容	開催場所
10月10日(水)～14日(日)	書道、工芸	美術館
10月12日(金)～15日(月)	華道展	平塚ラスカ
10月16日(火)～21日(日)	絵画・彫刻、写真	美術館
11月3日(土・祝)	鉄道模型展	中央公民館



◆舞台発表

開催日	内容	開催場所	開催日	内容	開催場所
10月13日(土)	日本舞踊	中央公民館	10月27日(土)	洋舞	中央公民館
10月14日(日)	剣詩舞道、詩吟		10月27日(土)	琵琶	
10月20日(土)	西洋音楽		10月28日(日)	フラダンス	
10月21日(日)	三曲、長唄		10月28日(日)	謡曲	
10月21日(日)	奇術		11月3日(土・祝)	民舞、民謡	



◆文芸大会等

開催日	内容	開催場所	開催日	内容	開催場所
10月27日(土)	俳句大会	中央公民館	12月2日(日)	ビデオ映画発表会	美術館
10月28日(日)	短歌大会			川柳大会	誌上大会
11月3日(土・祝)	茶会				

平塚市文化祭(公募展)の作品を募集します!

- 応募資格 15歳以上（但し、中学生は除く）
○応募部門 絵画・彫刻、写真
○参加料 1人 1,000円
○搬入・受付日 9月29日（土）午前10時から正午に中央公民館へ
○その他 応募要項は公民館等に置いてあります。
○問い合わせ 社会教育課 社会教育担当（0463-35-8123）

平塚市制80周年記念事業 第17回 湘南ひらつか囲碁まつり

1000面打ち大会が開催されます

木谷門下生や日本棋院所属のプロ棋士約80名との1000面打ち指導囲碁大会を中心に、トッププロによる平塚市制80周年記念七路盤大会・囲碁入門教室・サイン会など、各種囲碁行事を予定しています。囲碁ファンの方はもちろん、皆さんのが楽しめるイベントです。ぜひ御来場ください。参加者も募集していますので下記へお問い合わせください。

日 時 10月7日(日) 13:00～16:40
会 場 平塚市紅谷パールロード商店街

（雨天時は会場に設置する特設テント内）

お問い合わせ

（公財）平塚市文化スポーツまちづくり振興財団 囲碁まつり係
電 話 0463-32-2237
<http://www.hiratsuka-bunka.or.jp>

『史跡の風景』 第2回

田村の渡しと田村館



田村から富士を望む

相模国随一の大河である相模川は、相模国のほぼ中央を縦断して相模湾に注いでいます。河川は陸上交通の障害ですが、河川自体も物資や人が行き交う重要な交通路です。相模川の渡河点である田村の地は水陸の交通路が交わる要衝でした。平塚から厚木を経て八王子へ向かう「八王子道」、平塚から厚木を経て甲斐国へ向かう「甲州道」、中原から江戸へ向かう「中原街道」、鎌倉から相模南部を横断する「鎌倉道」、大山参詣のルートとなる「大山道」など、相模国内を通る幹線道路の多くが時と場面に応じていろいろな呼ばれ方をしながら田村の地を通っていました。田村の渡しについて新編相模国風土記稿には「渡頭より雨降、二子等の山々及び富嶽を眺め最も佳景なり」と記されています。丹沢から富士の山々を望む雄大な眺めは、時代を超えて旅人たちの疲れをいやしたことでしょう。

地元には「田村」の地名が古代の名将「坂上田村麻呂」に由来するとの伝承があります。坂上田村麻呂は8世紀末から9世紀にかけて、何度も東北地方に赴いて蝦夷の制圧に活躍した人物です。彼の伝説が語り継がれていることが、この地と交通との深い関係を物語っています。



田村館社の石碑

鎌倉時代にこの地に拠点を持つていたのが相模國の大豪族三浦氏です。三浦氏は平安時代から三浦半島を本拠地として一大勢力を築き、源頼朝の旗揚げの際にはいち早く参陣して鎌倉幕府の創設に貢献しました。「海の武士団」とも言われる三浦氏ですが、河川の水上交通にも精通しており、田村に「田村山荘」という館(やかた)を構えていました。



田村の渡し跡の石碑

鎌倉幕府三代将軍源実朝が倒れた後、幕府は源義朝の血を引く九条家の少年藤原頼経を將軍にしますが、頼経の擁立の陰には三浦氏の力がはたらいていたようで、頼経が京都から鎌倉に下向する際には田村山荘に5日間逗留しています。また、安貞二年(1228)七月には三浦義村の招きを受けた頼経が秋を満喫すべく田村を訪れています。このとき義村は頼経のために建物を修理したうえ、將軍用の建物を新築して歓待しました。その後も頼経は田村を訪れます、その際に連れてきた京都の樂人の演奏が今日の田村ばやしの源流といわれています。この田村山荘は現在の市営田村宮の前住宅周辺にあったと考えられ、「田村館址」として伝えられていますが、残念ながら館の具体的な姿はわかつていません。

行き交う旅人やさりげやかな鎌倉武士たちの饗宴を映したはずの相模川の川面は、何も語ることなく今日も静かに流れています。

(平塚市博物館学芸員)



田村の渡しから相模川下流方面を望む

平塚市文化振興基金に 御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活かされます。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願ひいたします。

(電話 0463-32-2235)

ミニチュア世界の扉を開く
魅惑のドールズハウス展
10月6日(土)～
11月25日(日)
平塚市美術館



文豪トマス・ハーディの家 1998年作

映画「借りぐらしのアリエッティ」で、主人公のこびとアリエッティが暮らしていたドールズハウス。建物や部屋を縮小し、ある時代の生活空間を正確に再現したドールズハウスは、西洋で生まれた素晴らしい美術工芸品です。この展覧会では、歴史的また芸術的に貴重なドールズハウスの名品が展示されます。階上や部屋を超えて、生活空間全体を見渡せるミニチュアの家は、実際には決して目にすることができない光景だけに、その非現実的ながらリアルな空間は、見る人の心を夢見心地にさせる不思議な迫力をもちます。魅惑のドールズハウスの数々を、この展覧会でご覧ください。

お問い合わせ : 平塚市美術館 ☎ 0463-35-2111



平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町15-1平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成24年(2012年)8月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページhttp://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm

再生紙を使用しています